

(1) ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例 【障害福祉編（身体・精神・知的障害 複合的ケース）】

CASE 1：各々障害がある家族のケアを担う小学5年生男子への支援

- 家族構成：父親（精神疾患）、母親（身体障害）
兄（中2、知的障害）、本人
- 本人：家族のことが心配な小学5年生の男子
- 関係機関等：生活支援課、小学校、民生委員

気 付 く

- 不動産会社から、家賃を滞納している入居者がいると社会福祉協議会に情報提供があった。
- 地域住民から、昼夜逆転した世帯の騒音が気になる、平日の昼間に公園でこどもと父親の姿を見かけるといった情報が民生委員に寄せられた。
- 小学校の担任が家庭訪問すると、母は「学校へ行かせたいが、その間、一人になることが不安」、本人は「学校へ行きたいが、母が一人になるのが心配」と話した。
- 社会福祉協議会が家庭訪問し、家族と信頼関係を構築したのち、父母の了解を得て、こども相談センター（ヤングケアラー相談窓口）、生活支援課へ連絡。

つ な ぐ

- 金銭管理に課題があったことから、社会福祉協議会が家計指導を行ったり、NPOに協力を依頼し食品等の提供やこども食堂への参加を提案し、生活困窮や世帯孤立を防ぐ支援を行った。
- 母のことが心配で母の傍を離れられない本人の気持ちを汲み取りつつ、スクールソーシャルワーカーが母へも働きかけをし、本人の登校に付き添った。
- 母が一人になる間の母子の不安を軽減するため、障害ヘルパー派遣の調整をするとともにヤングケアラーヘルパーを派遣し、母の見守りを行った。見守りの目が増えたことから、本人は安心して登校できるようになった。
- 本人は同年代の子と遊ぶのが苦手であったことから、民生委員が児童館で一緒に遊んだり、地域の行事に本人を誘い、家族以外で地域に安心して過ごす場があることを伝えた。

支 援 す る

- 生活困窮の要因である家計管理の支援を社会福祉協議会が、家事等の支援をヘルパーが継続。
- 民生委員が本人と家族に公園やコンビニで声をかけ、挨拶することで見守っていることを知らせた。
- 関係機関との会議開催時には民生委員も同席し、専門機関のみならず地域における見守りを強化した。
- 小学校は、チェックリスト（学校編）で本人の様子を見守る。

見 守 る

Point!

- ・チェックリスト（地域編）
Ⅳ様式編P11へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（大人向け）
Ⅱ活用編P9・Ⅳ様式集P2へ！
- ・チェックリスト（障害福祉編）Ⅳ様式編
P8へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（こども向け）
Ⅱ活用編P6・Ⅳ様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツールⅡ活用
編P11・Ⅳ様式編P3へ！

Point!

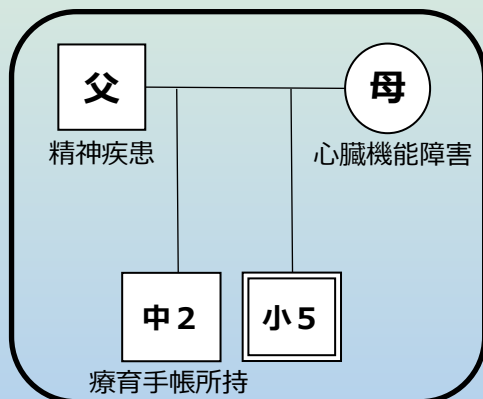
こども相談センター
（ヤングケアラー窓口）
Tel:076-243-4158

Point!

- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
Ⅳ様式集P12へ！

気付き

ジェノグラム（家族関係図）



<記号の例>

○ = 女性 □ = 男性（本人は二重）

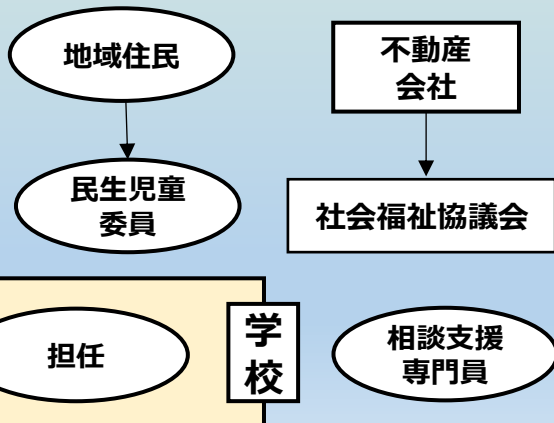
● ■ = 死亡

<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」

— 婚姻 --- 同棲（内縁） / 別居 // 離婚

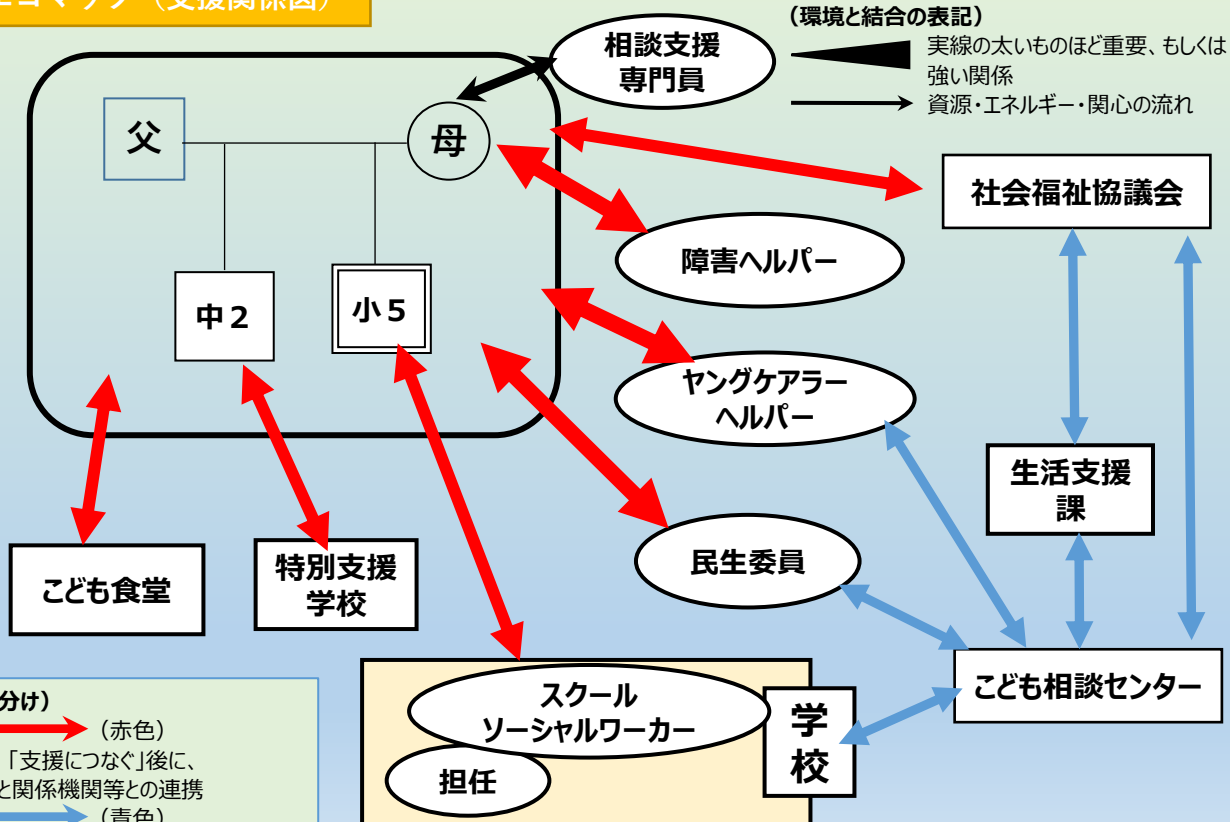
<同胞関係>

配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入
同居しているメンバーは○で大きく囲む



見守り

エコマップ（支援関係図）



（色分け）

（赤色）

主に、「支援につなぐ」後に、
家族と関係機関等との連携

（青色）

主に、「支援につなぐ」後に、
こども相談センターと関係機関との連携